（科目コード ： 1006620007AA）
【改訂】第8版（2015-03-13）
【科目】近代西洋社会論
【科目分類】 一般科目　**【選択・必修の別】** 選択　**【学期・単位数】**後期・2単位
【対象学科・専攻】 生産システム,環境　2年
【担当教員】 宮川　剛

【授業目標】
□近世・近代ヨーロッパの社会や歴史に様々な角度から光をあてて、世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解することができる。
□現代世界形成に大きな役割を果たしたヨーロッパの歴史的背景について理解を深めることで、グローバル化の時代ににふさわしい教養・認識を身につけることができる。
□現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。
□歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。

【教育方針・授業概要】
・本科目の総授業時間数は22.5 時間である。
・近世・近代ヨーロッパの政治、文化、宗教など、毎回テーマを設定し、講義や資料（英語文献含む）の講読を通じて、基本的な知識を提供する。
・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込むことで、現代世界の諸問題の歴史的背景を理解する。
・レポートの作成などを通じて、自らの考えを論理的に表現する訓練をおこなう。

【教科書・教材・参考書 等】
とくに教科書などは利用しない。授業中にプリントなどを配布する。参考図書なども授業中に指示する。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】
講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読に基づいた小レポートの作成などを授業中に行う。

【メッセージ】
中央公論新社『世界の歴史』シリーズや山川出版社『世界史リブレット』シリーズ（いずれも図書館に所蔵）のヨーロッパを扱った巻を読んでおくことが望ましい。

【成績評価方法】
[後期]期末試験：80%,レポート：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	近代ヨーロッパ社会史の主要な問題について理解する。	50 %	期末試験40%、レポート10%の割合で評価する。
2	社会史のアプローチを学ぶことで、物事に対して多様な角度からアプローチする訓練を積む。	50 %	期末試験40%、レポート10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】
◎(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する

【授業計画】（近代西洋社会論）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1	イントロダクション	西洋近代史概説		
2	歴史学の手法	史料をいかに読むのか。歴史学の対象は何か。		
３～４	宗教改革	中世キリスト教社会との断絶を告げる宗教改革の原因、過程、社会への影響について考察。		
５～６	西洋における国家	中世から近代にかけて、西洋における国家のあり方はいかに変化したか。		
７～８	議会	中世における身分制議会の成立以降、各国で議会制度はいかなる発展・展開を示したか。		
９～１０	ヨーロッパの都市	西洋都市社会の特徴について。古代～近代に至る変化の検討、他地域との比較。		
１１～１２	近代ヨーロッパの家族	ヨーロッパの家族史について。地域ごとの家族形態の特徴。親子関係。歴史のなかの「子供」や「若者」など。		
１３～１４	近代ヨーロッパの貴族	イギリスのジェントルマン階級をはじめとしたヨーロッパの上流階級が、近代史において果たした政治的、経済的役割について。		
15	総括	授業の総括		